

リフシア10周年記念事業

去る8月30日、茅ヶ崎市コミュニティホールに於いて地域や関係機関の皆さま約100名が集まり、リフシア10周年記念事業が開催されました。

第1部の記念講演では、NPO法人全国コミュニケーションライフサポートセンターの田所英賢さんが「被災地の実践から、真の地域助け合いを考える」というテーマで、

宮城県仙台市の『ひなたぼっこ』、石巻の『あがら いん』（地域食堂やケア付き住宅）が、当事者が役割を

もって働く場所になっていること、現在の制度では対応できない相談者の緊急受け入れ等の事例が紹介されました。『誰もが地域で普通に暮らせる社会』を目指すには、地域の支え合いや専門機関とのネットワークで活動する仕組みが大切であると力強く話されました。また、3・11東日本大震災時の教訓にも触れ、避難所



講師のCLCグループ長：田所英賢氏

3種の神器①導線を確認（要援護者は通路側に）、②着替えや授乳など女性目線、③避難所生活と混乱させない情報掲示板の重要性や福祉避難所のお話もありました。

常務取締役小嶋達之より開催の挨拶

第2部では関係機関の皆さまからご挨拶を頂き、地域の皆さまと交流の時間を持ちました。

10周年を機に各事業所は名称を「らいふ」から「リフシア」に替え、これからも多くの皆さまに信頼されるよう新たな一歩を踏み出しました。



約100名が参加し満席となった会場（茅ヶ崎市コミュニティホール）



挨拶に立つ、リフシア代表取締役 加藤順一

参加したお客様から感想をいただきました



まち景まち観
フォーラム・茅ヶ崎
高見澤 和子 氏

10周年記念講演のテーマに「被災地の実践から、真の地域助け合いを考える」を掲げ、NPO法人のグループ長・田所英賢さんをお招きしたところに、リフシアの企業姿勢を感じ取りました。田所さんが「地域力を上げる」必要性を強調されていました。私も景観まちづくり活動のなかで同じことを思い、その難しさを感じているところです。いま、社会全体が新たなコミュニティのあり方を模索しているのだ、私も頑張ろうと、気持ちを新たにすることができました。



鶴嶺西地区民生委員
児童委員協議会会長
井上 忠義 氏

創業10周年、誠にありがとうございます。私たち民生委員・児童委員に求められる活動も生活保護や各種分野のサービス利用への協力など個別支援活動がますます求められ、地域の安全安心は、福祉ネットワークの充実にあります。また、高齢者の皆さんが笑顔をつけない生活をして欲しいというのが地域住民の素直な思いであります。人生を閉じる瞬間まで笑いがあふれるリフシアであることを心から願っております。

事業所ごとに手づくパネルを作成し展示しました



「ぶちらいふ」コラムを出筆する井本さん（左）6年ぶり？に再会した編集室（み）